

第五期「島根県竹島問題研究会」(2回)

浜田沖の天然ガス田開発(試掘)と竹島問題

2022年3月17日

(下條)

1. 2022年1月17日、INPEX、3月から浜田沖合130キロ地点で探鉱事業
 - (1) 山口県萩市から沖合約150キロ、水深約240メートル
 - (2) 商業化できる埋蔵量が確認できれば、2032年を目処に生産
 - (3) 生産開始以降はパイプラインで供給(上陸地点、浜田?)

2. 関心を示す韓国政府
 - (1) 韓国側排他的経済水域内か確認、要請
 - (2) 試掘地点は、慶尚北道浦項から150~160キロ。慶州市の海岸から150キロ
 - (3) 蔚山から58キロ地点(東海1ガス田)で天然ガス探掘事業(2004年~2018年)

3. 今後、竹島問題が浮上する可能性
 - (1) 日本海の排他的経済水域の実態→現状の「日韓漁業協定」(1998年末、締結)
 - (2) 日本海と東シナ海に「暫定水域」(共同管理水域)を設定
 - (3) 暫定水域の設定は、外務省の失態→「日台漁業取り決め」(外務省の外交的敗北)
 - (4) 竹島周辺12海里には、日本漁船が近づけず→当時、竹島問題を棚上げして交渉

4. 韓国側の動向
 - (1) 独島基点の排他的経済水域→中間線は独島と隠岐諸島の間画定
 - (2) 暫定水域のかなりの部分が韓国側の排他的経済水域内に
 - (3) その場合、浜田から130キロは、微妙な距離

5. 竹島問題解決の好機
 - (1) 日本政府の竹島研究と尖閣諸島研究の現状
 - ① 竹島問題は1960年代の川上健三氏の段階
 - ② 尖閣諸島研究は奥原敏雄氏の段階
 - (2) 島根県竹島問題研究会の役割

① INPEX が公開した試掘地点



② 韓国側の報道



③ 日本側の排他的經濟水域



④ 鳥取県 HP 「新日韓漁業協定の内容」 (現実)



⑤ 韓国側が主張し始めた独島基点



⑥ 日台漁業取り決め (2013年)

